

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

脱炭素社会の実現に向けて、事業にて調達・製造・生産する制作物・印刷物を再生可能原材料および、植物由来のインク製品の使用を徹底する(すでに50%達成)。社内オフィスの複層サッシによる断熱性を高め、電力使用を省電力化し、冷暖房・空調設備を省エネ型のもので省エネルギー化を実現する(すでにサッシの複層化を熊本市のオフィスにて実現)。熊本県の環境保全対策の広報に貢献し、社会活動としても参加を行う(棚田や森林の維持・地下水保全など)

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	1.再生可能な原材料を使用し、印刷・製造物の環境負荷のさらなる軽減をはかる。2.またオフィスの省電力化を促進する。	1.再生可能な原材料の使用割合 2023年50%→2026年60% 2.オフィス全サッシの複層化割合 2023年50%→2026年60%
☐ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	環境保全に向けた社会活動への参加、積極的な告知広報。	1.県内17地区のつなぐ棚田遺産の記録および広報活動、社会貢献活動参加回数。2023年2回→2026年3回
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	地産地消。フードマイレージの小さい県産原材料の使用促進。	県由来の木材製品の購入率。2023年20%→2026年30%

<パートナーシップ>

2020年より、熊本県つなぐ棚田遺産の保全・維持継承に向けて熊本県および棚田地区との連携をはかり、棚田地区の記録と広報に努めている。肥後銀行本店にて「熊本の棚田写真展」を実施。山都町「通潤用水と棚田」および「球磨村「松谷の棚田」の記録を定期的に行い広報。動画にて発信。

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。

・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。